

## 上田城跡 改訂版（上田市）

築城年代：天正11年（1583年）、築城者：真田昌幸

ここが難攻不落の真田氏の居城・上田城跡/南側の駐車場（過っての尼ヶ淵跡）から南櫓を見上げたところ

[video](#)



アップで見たところ/左奥の屋根は東虎口櫓門



縄張図/尼ヶ淵→二の丸西虎口→二の丸北虎口→二の丸東虎口→東虎口櫓門→北櫓・南櫓→真田神社→西櫓→本丸跡→本丸土塁と進んでみよう

# 上田城跡公園案内図

MAP OF THE RUINS OF UEDA CASTLE PARK



こちらは南側の駐車場（過っての尼ヶ淵跡）から西櫓を見上げたところ



アップで見たところ



同じく、西櫓を見上げたところ/尼ヶ淵を天然の要害として臨む河岸段丘を利用して築かれている/三段に造成されている

[video](#)



右手に立っている説明板/城の東側には2つの屋敷があったようで、北側が古屋敷、南側のものが御屋敷と古図に書かれているらしい/本丸を中心として、コの字型に堀を巡らせて、その外側が二の丸であり、さらにそれを取り囲むように外堀が巡っている



信州上田城絵図(正保4年(1647)国立公文書館所蔵)

「上田城お勧め見学ルート その4」  
**尼ヶ淵(城の南側を守った天然の堀)**  
 ここから本丸の櫓を見上げると、その守りの堅さを実感します。江戸時代にはここを千曲川の分流が流れていたのですから、さらに防備は強固なものになりました。崖の高さは約12メートルあり、上田泥流層の垂直な崖がさらに敵の侵入を難しくしました。  
 ところが、千曲川が増水した際に、崖を川の水が削ってしまふことから、歴代の城主はこの対応に頭を痛めました。崖面に築かれた石垣には算木積みの古い技法と考えられるものもあり、仙石氏の頃、あるいはそれ以前に築かれた石垣である可能性もあります。そして、享保17年(1732)の大水では、ついに崖が大きく崩落してしまいました。そのため、城主、松平忠愛は崖を守るための石垣の築造を計画し、翌年から工事を始めました。享保21年、石垣は完成しますが、石材と石工の不足から当初の計画通りにはいかず、南櫓と西櫓の下を除いて、石垣は低くなったり、造られずに終わってしまいました。

尼ヶ淵は要害堅固な上田城をバックにした、おススメの撮影ポイントです。

信州上田城絵図をアップで見たところ





野面積みの石垣を見たところ



そこから南櫓方向（東方向）を見たところ/前方に説明板が見える



本丸東西虎口の土橋より南側の堀は「から堀」であったようだが、東虎口側の南東隅にあるこの石垣には水堀にするための排水口があると云う

## 尾ヶ淵と石垣

本丸南側の尾ヶ淵は崖面がもろく崩れやすい性質だったことから、築城以来崖の保護対策が講じられてきました。南・西櫓下の下段には享保の洪水(享保17年・1732)後に設置された大規模な石垣があります。

本丸東西虎口の土橋より南側の堀は、正保4年(1647)江戸幕府に提出した絵図では『から堀』と記されており、比較的早い時期、または当初から空堀だったことが分かります。ただ東虎口側の東南隅にある石垣には排水口があり、水を入れた、あるいは入れる意図があったことが分かります。



正保4年(1647)信州上田城絵図(国立公文書館所蔵)



本丸堀の東南隅の石垣(中央に排水口)

これは南櫓を見上げたところ/下段石垣が享保の洪水（1732年）後に設置された大規模な石垣

 [video](#)



中段石垣の中央部崖面露出部分は、当初のままらしい



## 南櫓下の石垣について



上田市教育委員会

南櫓下の石垣は、上田城の南面を護る天然の要害「尼ヶ淵」より切り立つ断崖に築かれています。中段石垣は、長雨により一部崩落したことから修復工事を実施しました。中央部の崖面露出部分は、崖が張り出しており石垣が無かった部分であることから、原形に基づきモルタルで修復しました。

修復前の石垣（平成14年3月）

その右手はこんな感じで石垣は止まっている

 [video](#)



そこから左手（西方向）に西櫓を見たところ



その左手を見たところ/現在は公園となっているが、当時はここが尼ヶ淵（千曲川の分流）であった





さて、西櫓下の階段を登って二の丸西虎口へと進む

 video



階段（右下）を登って右手（東方向）に本丸西虎口を見たところ/右手が西櫓



右下の登って来た階段を見下ろしたところ



本丸西虎口と西櫓/手前は二の丸から本丸西虎口への土橋



そこで、左手を見ると本丸を囲む堀（本丸西虎口の土橋より北側は水堀となっている）が見える/右手が本丸、左手は二ノ丸のエリア



同じく、後ろを振り返ると花木園（二の丸の一部）となっている

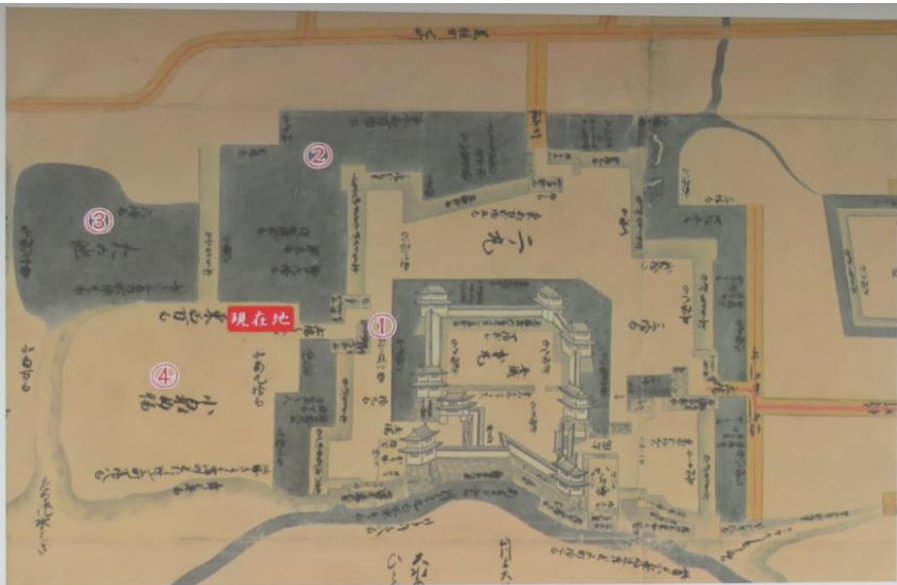


さて、これは二の丸西虎口を西側から東方向（二の丸方向）に見たところ/左手に説明板が立っている

[video](#)



絵図の左手の小泉曲輪北側は百間堀が二の丸を東方向に囲み、その左手には捨堀があったが、現在は野球場や陸上競技場などになっている



信州上田城絵図(正保4年(1647)国立公文書館所蔵)

- ①江戸時代には鍵の手に折れ曲がった石垣があった。
- ②現在の陸上競技場と野球場。「百間堀」とは「大きな堀」であることを示す名称と考えられる。「広堀」とも呼ばれた。
- ③現在の<sup>上田</sup>高校第二グラウンド。二の丸堀の水が排水されたところ。
- ④上田城の背後を守る郭。大きな建物は無かったと考えられている。

### 〈上田城お勧め見学ルートその3〉 二の丸西虎口(百間堀と小泉曲輪)

この周辺は二の丸の西の出入口(絵図①)で、「大手門」の反対側、すなわち裏門にあたります。上田城の背後を守る百間堀(②)や捨堀(③)、小泉曲輪(④)があった場所です。

二の丸堀の一部は真田昌幸の時代に矢出沢川の旧河床を改修したものと考えられています。仙石忠政の上田城復興工事の際に、堀は絵図のような配置となりました。百間堀には現在、野球場や陸上競技場があります。昭和3年に昭和天皇即位を記念して造られた施設です。観客席を堀の斜面に造るなど、地形を活かした工夫には目を見張るものがあります。なお、捨堀と呼ばれたところは現在、上田高校第二グラウンドとなっています。

小泉曲輪は真田昌幸の上田築城以前に小泉氏が拠点にしていた場所だとされていますが、詳しいことは分かっていません。松平氏が藩主だった頃には、茶屋や馬場が設けられていました。小泉曲輪の南側も尼ヶ淵のように上田泥流層の断崖となっています。切り立った崖が城の守りを固めた様子をぜひご覧ください。

(坂を下って徒歩約10分)



西虎口への南側（右手）には、二の丸と手前の小泉曲輪との間に堀跡が残っている/北側（左手）は野球場の施設が建てられてしまっている



小泉曲輪

南側（右手）を見たところ/小泉曲輪（右手）と二の丸（左手）との間の堀/奥の方で城壘が右手に折れているのがよく分かる



小泉曲輪

少し左手から見たところ



小泉曲輪

そこで左手を見ると二の丸の土塁が残っている



これは振り返って北側（左手）を見たところ/このように堀底に野球場の施設が建ってしまった



そこで右手を見ると、土塁・堀の斜面に観客席が見える/土塁を改変して利用している



これは二の丸を囲む堀を土橋（小泉橋）で渡って、二の丸西虎口を見たところ



そこで振り返って、小泉橋方向（西方向）を見たところ

[video](#)





説明板が立っている/右手は上田市営野球場への入口の門



## 二の丸西虎口



正保4年(1647)信州上田城絵図(国立公文書館所蔵)



発掘調査で確認された櫓門礎石跡(東から撮影)

二の丸への入口は、正面側である東虎口のほか、西・北虎口の計3箇所あります。西虎口の石垣は現在は失われてしまいましたが、基礎の根石列が発掘調査で確認されています。西虎口では櫓門の礎石跡も確認されました。このことから、元和8年(1622)上田城主となった仙石忠政は二の丸にも櫓門を建造する計画だったことが分かりますが、忠政が病死したため上田城復興は未完成に終わりました。

そこで右手を見ると、本丸（右手）を囲む堀に沿って時計回りに二の丸を進む通路がある



これは左手の土塁にあった、地元出身の川柳家・金子呑風の「城一つ伸びゆく街の火を見つめ」の句碑



右手には本丸を囲む堀（水堀となっている）が巡る

 [video](#)



その通路を東方向に進むと左手に招魂社がある/右手は本丸を囲む堀



これが招魂社/二の丸北側エリアに建っている



そこで振り返って、本丸を取り囲む堀を見たところ/堀の向こうが本丸

[video](#)





これは招魂社の社殿を左手（西側）から見たところ/左手は二の丸の土塁

[video](#)



そこで振り返って、西方向を見ると土塁が回っている



付近にはこんな説明板が立っていた



# 真田忍者の活躍

第1期 一五四〇年〜一五八二年

## 《真田忍者軍団の形成》

真田幸隆（幸村の祖父）は、武田信玄に仕え、砥石・岩櫃・沼田の城を次々と手に入れました。後を継いだ昌幸は真田忍者軍団を作りました。この真田流忍法は「甲陽流」と呼ばれ、真田一族の根津神平が家元になりました。

神平は海野宿の近くで歩き巫女を養成し、「くノ一忍び」として活躍させたといい伝えられています。忍びの掟は「何も残さず」なので、謎に包まれています。

第2期 一五八二年〜一六〇〇年

## 《上田合戦》

昌幸は上田城をつくり、長男信之（幸村の兄）は沼田城主となりました。上田と沼田を結ぶ道は真田街道と呼ばれ、街道の山々には皆が作られ忍者達が守っていました。

徳川軍は上田城を二度攻めてきました。第一次上田合戦では徳川の大军に対して真田忍者はゲリラ作戦で大活躍しました。

第二次上田合戦で関ヶ原の戦いに向かう徳川軍を、上田に足止めにしたことにより真田の名が天下にとどまきました。

第3期 一六〇〇年〜一六一五年

## 《九度山時代・大坂の陣》

徳川軍（東軍）と豊臣軍（西軍）が戦った関ヶ原では西軍が負け、西軍の味方をした昌幸・幸村親子は、十四年間九度山にとじ込められ、その間に昌幸は病死しました。真田忍者たちは徳川に仕えた兄信之（上田城と沼田城の城主）のもとを行走来し、変装して徳川の動向を探っていました。苦しい生活でも穏やかな日々を過ごしていた幸村に豊臣家から大坂への誘いがありました。各地にいた忍者は幸村の下に集まりました。

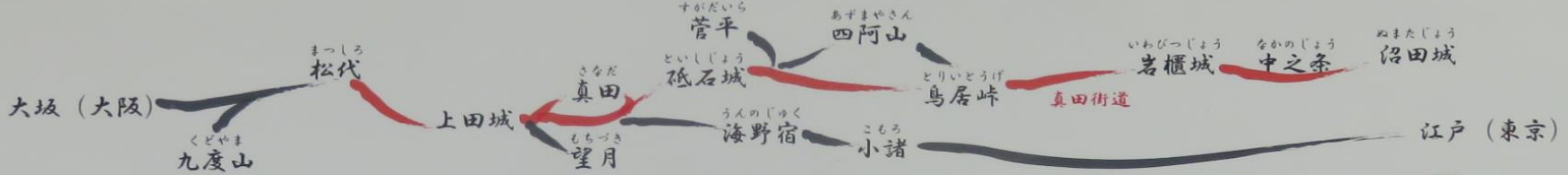
冬の陣が始まると、幸村は真田丸を築いて活躍し、徳川の武將を驚かせました。しかし翌年の夏の陣で、真田忍者は幸村とともに勇ましく戦い討死しました。真田忍者の活躍ぶりが十勇士の物語を生んだのです。

第4期 一六一六年以降

## 《真田忍者の子孫》

上田城と沼田城を治めていた信之は、一六一二年松代に移され、上田の真田家は四十年間で幕を閉じました。

真田家に仕えた忍者たちは松代と沼田に分かれました。現在でも真田忍者の子孫の多くが吾妻地方で暮らしています。伊能采女の子孫は甲陽流忍法を伝えていきます。忍者頭横谷左近の十代目は上田に住んでおり、秘伝の巻物を所蔵しています。



さて、ここは更に東方向に進んだ本丸を囲む堀の北東角/説明板がある

[video](#)



そこで、西方向を見たところ/左手が本丸、右手は二の丸



同じく、南方向を見たところ/右手が本丸、左手は二の丸



# 本丸土塁の隅欠（すみおとし）

上田城や藩主屋形（上田高校）の土塁、堀、城下の寺社の配置等には鬼門除けが見られ、真田氏の頃から設けられていたものとされる。鬼門とは北東の方位で、鬼が出入りする方角として忌み嫌われ、建物等の東北の角をなくして隅欠としたり、城下町の鬼門に寺社を置いたりした。

上田城本丸の土塁は東北の角を切りこみ、やぐら2棟をその両脇に配置していた①。堀や土塁の斜面が内側にへこんで見えるのはそのためである。

二の丸堀の東北の角は、かぎの手に折り曲げ②、外側を「樹木屋敷」と呼ぶ林としていた③。また、藩主屋形の土塁・土塀も隅欠をするなど、各所に鬼門を除ける強い意識がみられ、上田城の特徴のひとつである。



本丸土塁の隅欠



正保4年（1647）上田城絵図（国立公文書館所蔵）



「本丸土塁の隅欠」を見たところ



「本丸土塁の隅欠」

さて、ここは二の丸北虎口/柵形虎口となっており、手前には百間堀(西側は陸上競技場のグラウンドとなっている)が巡っている

[video](#)



柵形虎口を左手に見たところ



百間堀の東側は埋め立てられて児童遊園地となっている

## 二の丸北虎口



発掘調査で確認された櫓門礎石(東から撮影)



正保4年(1647)信州上田城絵図(国立公文書館所蔵)

二の丸にあった3箇所の虎口のうち、東・北虎口のみ石垣が残っています。主な石材は本丸の石垣と同じ緑色凝灰岩です。現在北虎口にある石垣2基は平成2年及び5年に復元整備したものです。北側の石垣の西端は築造当初のものです。

北虎口土橋の両側面には石垣が積みまれています。東側は堀が埋め立てられて児童遊園地になっており現在は見る事ができませんが、西側は陸上競技場につながる通路に沿って良好に保存されています。

平成3年度に実施した発掘調査では、櫓門の礎石が確認されました。このことから、上田城主仙石忠政は二の丸北虎口にも櫓門を建造する計画だったことが分かりますが、病死により建てられることはありませんでした。

百間堀を渡る二の丸北虎口の土橋には東側から西側の堀へ水を通すための木樋（導水管）が埋められていたと云う

## 百間堀の樋（ひゃっけんぼりのとつ）

現在の陸上競技場や児童遊園地は、江戸時代には大きな堀でした。この付近はもともと矢出沢川が流れていました。大工事をして城の北方に流れを変え、旧河床を広げて堀を造ったと考えられています。その大きな規模から百間堀と呼ばれました。二の丸北虎口（北の出入口）の土橋には東側から西側の堀へ水を通すために、木で作った樋（導水管）を埋めてありました。ただし、地中に埋めた木製の樋は、腐ったりしてたびたび改修が必要だったと考えられます。

陸上競技場の門の付近に残る石垣には、切石を組み合わせた樋（約90cm四方）の出口を見ることが出来ます。これは元禄15年（1702）に木樋から石の樋に変えた時のものと考えられています。当時幕府に提出した修復願いには、「木樋が腐って壊れてしまったので、石の樋に変えたい」と書かれています。



石製樋の出口



正保4年(1647) 上田城絵図 (国立公文書館所蔵)



坂を下りていただき、ぜひ実物をご覧ください。

これは西側の陸上競技場となっている百間濠の跡を見たところ/手前の坂を右手に下りてみる



すると、突き出た物がある



こんな塩梅





ここに木樋が通っていて、東側の堀の水をこちら側に通すようになっていた



その坂を戻って柵形虎口を見たところ



そこで、右手を見たところ



二の丸北虎口を西側から東方向に見たところ



そこで、左手を見たところ/この左側（西端）の石垣は当初のものらしい



反対に東側から西方向に見たところ



左手から柵形虎口を見たところ



同じく、北方向に見たところ

 [video](#)





さて、これは二の丸の北西の隅に当たる鬼門除けとしての樹木屋敷の辺りから二の丸堀跡と土塁を見たところ（隅欠の部分）

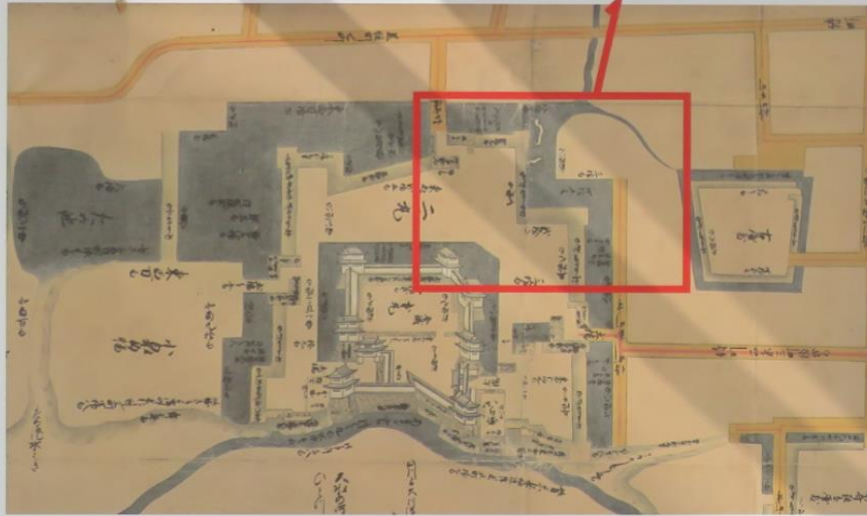
[video](#)



上記の写真で、駐車場に着色した部分が二の丸堀と土塁があった場所

### 〈二の丸の鬼門除け〉

- ① 堀の角を内側に曲げて、東北方向の角を無くしている。
- ② 「樹木屋敷」と呼ぶ一帯。鬼門の方角に屋敷を建てることを避け、木を植えただけの場所とした。



信州上田城絵図(正保4年(1647)国立公文書館所蔵)

この場所は二の丸の東北の隅に当たり、本丸と同じく鬼門除けがありました。二の丸堀の角を内側に曲げ(絵図①)、隣接する平地(②)は「樹木屋敷」と呼ぶ一帯になっていました。「屋敷」と言うものの、鬼門を除けるために建物は作られず、実際には木を植えただけのところでした。堀や土塁の鬼門除けは、上田城を築いた真田昌幸の頃から設けられていたと考えられています。現代になって二の丸堀は埋め立てられてしまい、正確な位置は分かっていませんでした。

駐車場の造成前に発掘調査をした結果、寛永3年(1626)から仙石忠政が復興した二の丸堀の跡が見つかりました。駐車場に着色した部分は、二の丸堀と土塁があった場所を示しています。

なお、二の丸堀の一部にはかつて電車が走っており、当時の「公園下駅」のプラットホームが現在も残っています(右手に徒歩約5分)。また、本丸の土塁の上から堀をのぞいてみてください(右手に徒歩約10分)。歴代城主の鬼門除けに対するこだわりを感じることができます。

〈上田城お勧め見学ルート その1〉

### 二の丸の鬼門除け(堀の隅欠しと樹木屋敷)

この場所は二の丸の東北の隅に当たり、本丸と同じく鬼門除けがありました。二の丸堀の角を内側に曲げ(絵図①)、隣接する平地(②)は「樹木屋敷」と呼ぶ一帯になっていました。「屋敷」と言うものの、鬼門を除けるために建物は作られず、実際には木を植えただけのところでした。堀や土塁の鬼門除けは、上田城を築いた真田昌幸の頃から設けられていたと考えられています。現代になって二の丸堀は埋め立てられてしまい、正確な位置は分かっていませんでした。

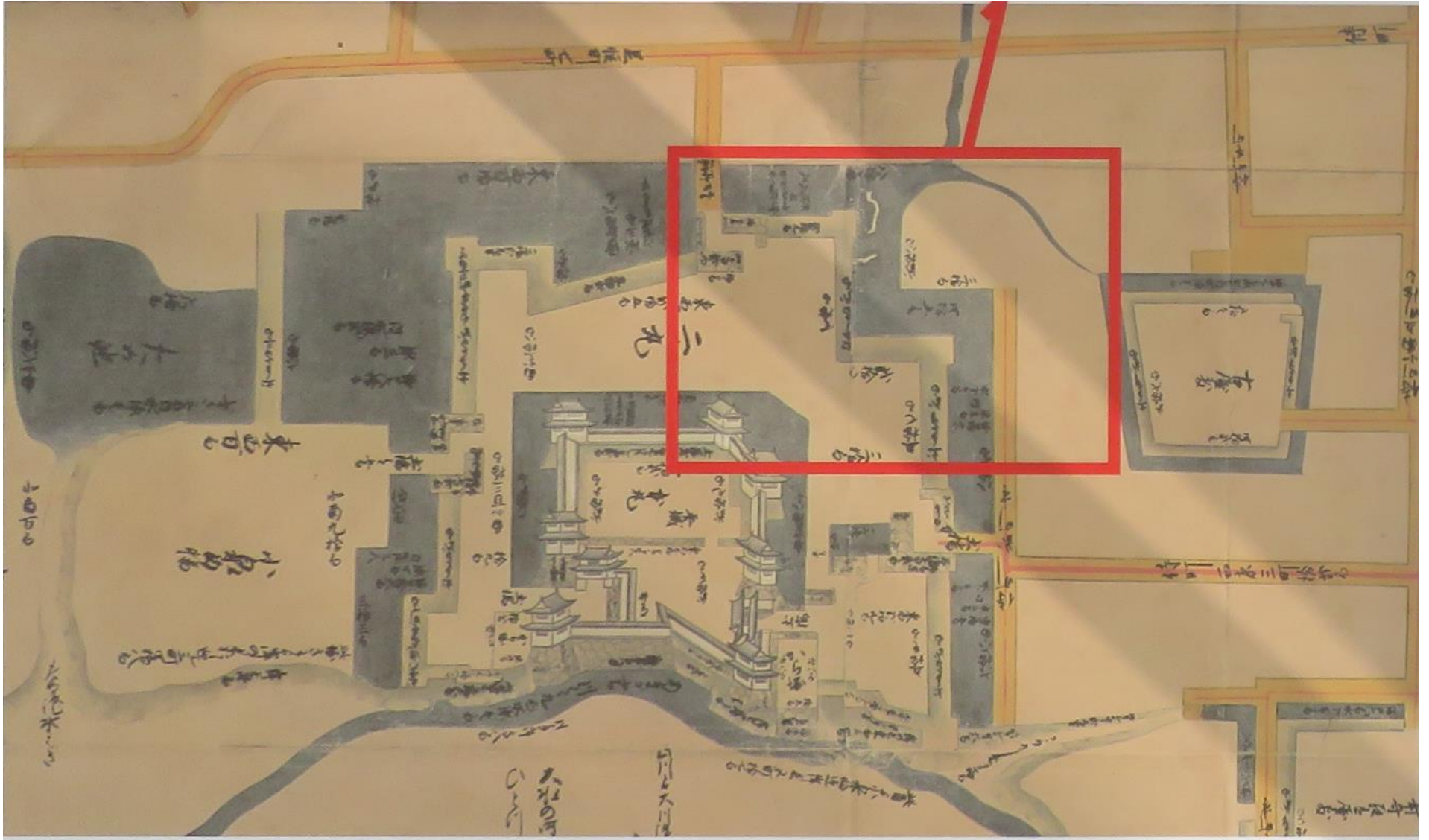
駐車場の造成前に発掘調査をした結果、寛永3年(1626)から

仙石忠政が復興した二の丸堀の跡が見つかりました。駐車場に着色

した部分は、二の丸堀と土塁があった場所を示しています。

なお、二の丸堀の一部にはかつて電車が走っており、当時の「公園下駅」のプラットホームが現在も残っています(右手に徒歩約5分)。また、本丸の土塁の上から堀をのぞいてみてください(右手に徒歩約10分)。歴代城主の鬼門除けに対するこだわりを感じることが

できます。



信州上田城絵図(正保4年(1647)国立公文書館所蔵)

さて、ここは二の丸東側の堀/現在は散策路となっているようだが、古図を見るとここも水堀であったようだ/北側から南方向に見たところ



堀底を少し南方向に進んだところ/左手の階段の上は道路/右手の土手の上は二の丸東側のエリアで、上田市立博物館が建っている



米蔵もあったようだ



更に進んで、振り返って北方向を見たところ/左上が二の丸

 [video](#)



左上を見ると、二の丸の石垣が見える





更に南側に進んだところ/左手の階段を登ると道路/右手に説明板が立っている



## お堀の移りかわり

けやき並木のこの場所は上田城二の丸の堀の跡です。  
二の丸をかぎの手に囲んで、その延長は約646間(1,163m)  
あり、上田城の堅い守りに役立っていました。(写真1)  
その後、昭和3年5月に上田温電北東線が開通し、この地を  
電車が通っていました。(写真2)  
昭和47年2月に電車が廃止され、現在に至っています。

(写真1)



○現在地

国立公文書館所蔵

(写真2)



国史館  
創立50周年記念  
2017年11月

この一段高くなった地盤が「公園下駅」のプラットフォームか・・・

[video](#)



さて、階段を登ると道路沿いにさまざまな説明板が立っていた



ここより更に東側が三の丸で、地図には三の丸大手口が記されている

# 上田城下町絵図



## 二の丸東虎口

二の丸への入口は、正面側である東虎口のほか、北と西の計三箇所あった。いずれにも石垣が積まれていたが、このように城の門に枒形を造って敵の城内への直進を防ぎ、曲がって出入りするようにした出入口を虎口（小口）という。しかし、この二の丸の虎口は三の丸大手口と同じく簡単な木戸が作られていただけで、建物（櫓門）は建てられなかった。

## 武者溜

櫓門前の敷地一帯は三十間堀と石垣で他から仕切られた一つの郭になっており、「武者溜」とされていた。武者溜とは城門内の外郭に沿った広い場所、軍勢の屯集、勢ぞろいに使われる一面をいう。松平家が城時代には、その中に同家の鎮守社などが祀られるようになったため、この武者溜は「鎮守曲輪」とも呼ばれた。

## 上田城 城下町絵図アーカイブ

現代地図に元禄絵図を重ね合わせて閲覧でき、GPS版では、散策しながら絵図上で現在位置がわかります。



二次元バーコードよりアクセスできます。

## 元禄絵図 マッピング

## VR 上田城

上田城（本丸、二の丸）と三の丸大手口、藩主屋敷の江戸時代の姿を仮想現実で楽しむことができます。



二次元バーコードよりアクセスできます。

## 国指定 史跡

文化財保護法第一〇九条の規定により左記のとおり指定する

記

一、種別 史跡

一、名称 上田城跡

一、所在地 上田市二の丸

一、指定年月日 昭和九年十二月二十八日

上田城は天正十一年（一五八三年）真田昌幸によって築かれた平城である。

当時の千曲川分流尼ヶ淵に臨み、太郎山と千曲川・神川に取り囲まれた天然の要害に拠っている。竣工の翌天正十三年昌幸が徳川家康の命に従わなかったため、その怒りに触れ、大久保忠世・鳥居元忠等の率いる信濃・三河の勢八千でこの城を攻めたが遂に陥れることができなかった。

また慶長五年（一六〇〇年）関ヶ原の合戦に際し、豊臣方に属した昌幸・幸村父子は、この城にたて籠り徳川秀忠率いる二万五千の大軍の西上をはばんで、関ヶ原の戦いに不参加したことは、上田城を一躍天下の名城と言わしめるに至った。

現在三の丸は市街地と変わってしまったが、本丸と二の丸には土塁・石垣・濠跡がのこり、特に本丸の東西虎口に三基の隅櫓と石垣が昔の姿を留めている。

### 保存上の注意

火気に注意すること

工作物及び石垣並びに土塁地域を破壊しない

その他指定地域の現状を変更しないこと

平成二十五年四月一日

文化庁

上田市教育委員会



上四城址

平屋竹雨

英雄父子據孤城

曾扼關東十萬兵

故國蒿萊刺樓櫓

亂山如戟勢崢嶸

門人南村並井祥言

同じようなものが・・・





「史蹟 上田城址」と記された標柱



さて、これは道路側から見た二の丸東虎口/二の丸を巡る堀(遊歩道となっている)を渡って二の丸に進む/元々は土橋であった

[video](#)



欄干に「二の丸橋」と記されている



橋の上で、左手（南方向）を見たところ/先程進んできた堀底が見える



二の丸東虎口から二の丸を見たところ/元々はこの先が柵形虎口になっていたようだ

 [video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



二の丸に入って、振り返って二の丸東虎口を見たところ





二の丸の武者溜のエリアから二の丸東虎口を見たところ/石垣は左手に続いている

[video](#)



こんな塩梅



その石垣を正面（西側）から見たところ

[video](#)



そこで、右手を見たところ/二の丸東虎口が見える



これは二の丸に建つ上田市立博物館

 [video](#)



ここにも説明板があった



## 上田城の歴史

上田城は、真田幸村(信繁)の父、真田昌幸によって天正十三年(一五八五)には一応の完成をみたものと考えられている。この上田城はまもなく、天下にその名を知られるようになった。それは、この上田城に拠った真田氏が、二度にわたって徳川大軍の攻撃をうけ、みごとにそれを撃退してしまったからである。

最初の合戦は天正十三年に行われた。攻め寄せた徳川勢は七千人余、迎え撃つ真田勢は二千人弱であった。しかし、真田氏の巧妙な戦術によって、徳川軍は思わぬ大敗となり、死者を千三百人余もだした。これに対し、真田方の死者は四十人ほどであったという。

二度目の戦いは、慶長五年(一六〇〇)の間ヶ原合戦に際してのものであった。間ヶ原へ向かう途中、上田へ押し寄せた徳川秀忠軍は、三万八千人という大軍。これに対し、昌幸・幸村父子の率いる上田城兵は、わずか二千五百人ほどであった。しかし、このときも徳川勢は上田城を攻めあぐね、この地に数日間も釘づけにされただけに終わり、間ヶ原での決戦に遅れるという大失態を演ずることになる。

上田城はいわば地方の小城であった。石垣も少なく、一見したところ要害堅固な城とも見えない。しかし実際は、周囲の河川や城下町を含めた全体が、きわめて秀れた構造となっており、これが現在、学術的研究によって明らかになってきている。全国に数多い近世城郭のなかで、二度も実戦を経験し、しかも常にこのような輝かしい戦果をあげた城はほかに見ることはできない。

上田城はその後、徳川軍の手で破却されたが、真田氏にかわって上田城に入った仙石氏によって復興された。(寛永三年、一六二六)この時復興された上田城は、真田氏時代そのままであったとみてよく、仙石氏の後、松平氏の世となってもほとんど変化はなかった。

廃藩置県後、明治七年、上田城は民間に払い下げられ、再び廃城となった。

この際、本丸付近を一括して購入した丸山平八郎は、明治十二年、松平神社(現 真田神社)創建にあたり本丸南側の土地を神社用として寄付し、ついで、明治二十六年には、残りの土地を遊園地用として寄付した。これが上田城跡の公園化への第一歩となった。現在、三ノ丸地域は改変しているが、本丸・二ノ丸には土塁跡などがあり、かつ本丸の三基の隅櫓は昔の姿を留めている。

さて、これは本丸を巡る東側の堀を渡る土橋で、本丸の東虎口櫓門（正面）と南櫓(左手)、北櫓(右手)を見たところ/土橋の両端は武者立石段





橋の上で、右手（北方向）の堀（水堀）を見たところ



同じく、左手（南方向）の堀を見たところ/こちらは空堀となっている/正面の石垣の向こうは尼ヶ淵



そこで、右手を見たところ/右手は南櫓の石垣



同じく、左手を見たところ



これは尼ヶ淵側から石垣を見たところで、右手には上部の堀が水堀であったのではないかと推測できる排水口が見て取れる/左上は南櫓



東虎口櫓門の右手の石垣には「真田石」がある





## 真田石

大手の石垣に巨石を用いる例は多く、城主はその権威を示すために、大きさを競ったという。真田石は、真田信之が松代に移封を命じられた際に、父の形見として持っていていこうとしたが、微動だにしなかったという伝承がある。現在ある石垣は仙石忠政が造ったものであるが、真田氏に寄せる人々の敬愛の情がうかがえる伝承である。

この説明板は 株式会社長野銀行 様の協賛により作成しました。

これが「真田石」

[video](#)





さて、これは本丸南側に所在する真田神社の鳥居



「六文銭」が刻まれている



智恵の神社

## 真田神社の由緒

当社は戦国時代の天正十一年  
(一五八三)上田にこの平城を築き  
城下町を造った真田父子を主神  
とし、江戸時代に民政に尽くした  
仙石・松平の歴代藩主を祭神と  
する、神社であります。

殊に十数倍の大軍を二回に亘り  
撃退して日本一の智将と謳われた  
真田幸村の神霊は、今も智恵の  
神様として崇められています。

## 真田神社

東虎口櫓門を潜り、本丸側から東虎口櫓門を見たところ

[video](#)



そこから左手の北櫓を見たところ



同じく、南櫓を見たところ



これが北櫓

[video](#)



そこから右手に東虎口櫓門と南櫓を見たところ





さて、これは真田神社社殿



これは「真田井戸」/左手は本殿のようだ

[video](#)



## 真田井戸

この井戸からは、  
抜け穴があつて城北の  
太郎山麓の砦に通じて  
いた。敵に包囲されても  
その抜け穴より兵糧を  
運び入れるにも、城兵の  
出入りにも不自由  
しなかつたという。

上田市木 一位の木製



さて、前方はその奥（西側）に建つ西櫓



## 本丸西櫓

本丸には7棟の櫓がありました。いずれも元和8年(1622)真田信之の松代転出後に上田城主となった仙石忠政が行った、寛永3年(1626)からの上田城復興工事の際に建てられました。

現在、本丸の東西虎口には隅櫓が3棟ありますが、南櫓・北櫓の2棟は、明治維新後、他所へ移築されていたものを現在地に再移築したものです。西櫓のみが寛永期の建築当初の部材を残し、外観もほぼそのままの姿を残す西櫓は全国的にも貴重な建物であり、昭和34年には南櫓・北櫓とともに長野県宝に指定されました。

櫓の構造は桁行5間(約9m)梁間4間(約7.2m)の二重櫓で、主要材は松と榎です。屋根は入母屋造で本瓦葺き、外壁は下見板張りて一部を白漆喰の塗籠としています。

窓は「武者窓」という形式で、突き上げ戸が取り付けられており、棒で突き上げてすばやく開けられるようになっています。

1階の狭間(矢・弾丸を放つための窓は、いずれも下方の敵を狙いやすいよう低い位置に開けられています。南・北面では左から縦長の矢狭間が一つと、正方形に近い鉄砲狭間三つが並んでいます。また西面では、左側に矢狭間が一つ、その右に鉄砲狭間が並んで配置されています。

当初の姿を保つ西櫓

 [video](#)



これは西櫓付近から見下ろした尼ヶ淵





その右手を見下ろしたところ



西櫓の右手（西方向）を見たところ



その右手を見ると、ここが本丸西虎口で、ここにも櫓門があったと思われる礎石や石垣天端の切り欠きが見て取れる



その更に右手を見たところ



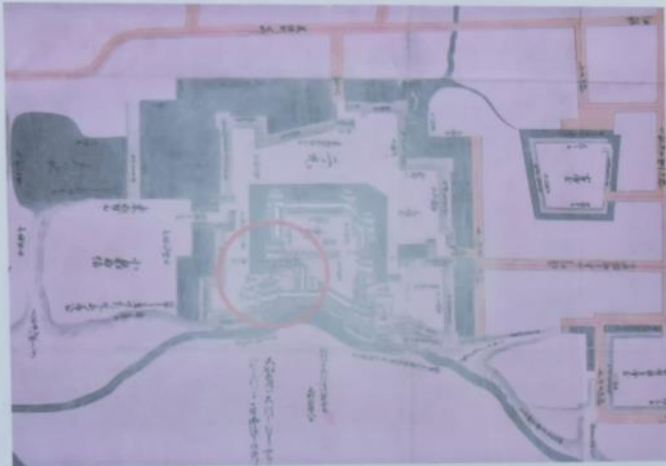
これが本丸内部（北東側）から見た本丸西虎口/櫓形構造になっている/前方は西櫓/右手の雑草の辺りは煙硝蔵跡

[video](#)



# 本丸西虎口

本丸には東西2箇所、二の丸には3箇所の虎口がありました。虎口とは、城内への敵の侵入を防ぐために城の門に拵形を造って曲げるようにした出入口のことです。平成3年に実施した本丸西虎口の発掘調査では、櫓門の礎石及び石垣の根石等が検出されました。このことにより、本丸東虎口と同様、西虎口にも櫓門1棟があったことが分かりました。また石垣の天端には、櫓門下層最前列の冠木と、最後列の敷桁を載せるための切り欠きが残っています。



正保4年(1647)信州上田城絵図(国立公文書館所蔵)



本丸西虎口櫓門の礎石と石垣天端の切り欠き



Wi-Fi FREE SP  
Wi-Fi 無料スポット

煙硝蔵跡/説明板が立っている/前方は本丸をコの字（東・北・西）に囲む土塁



## 二の丸櫓台と煙硝蔵

二の丸にあった3箇所の虎口には櫓台が東西に各1箇所、土塁上には6箇所に設けられていました。現在遺構が保存されているのは東虎口の1箇所と、土塁上の2箇所のみです。櫓台の存在から、上田城復興に着手した仙石忠政は二の丸の各虎口にも櫓門と櫓を構築する予定だったことが分かりますが、寛永5年(1628)忠政が病死したため未完成に終わりました。

また仙石氏が在城以降の絵図には、二の丸南西部に煙硝蔵えんしょうが1棟描かれています。煙硝蔵は仙石氏が上田城主だった貞享3年(1686)に新設され、本丸内の櫓に保管されていた煙硝(火薬)を移しました。



仙石氏時代上田城及び城下町之図(上田市立博物館所蔵)

長野県 地域発 元気づくり支援金



Wi-Fi FREE

Wi-Fi 無料利用可能  
Wi-Fi 能使用



土塁の端から見たところ/右手は西櫓/本丸西虎口の櫓門の石垣天端の切り欠きが見て取れる



石垣天端の切り欠き

さて、本丸の中心部に進もう/標柱が立っている

 [video](#)



「史跡 上田城跡本丸跡」とある



本丸は東・北・西側を土塁と堀で囲まれている/西側から東方向に見たところ

[video](#)



「戊辰役上田藩従軍記念碑」も立つ



南東側から北西方向に見たところ/土塁が回っている



北西側から南東方向に見たところ/本丸南側に所在する真田神社（右手の建物）のエリアは、仕切りの石垣で本丸中心部よりも低くなっている



本丸中心部にはさまざまな説明板があった

[video](#)

# 真田氏時代の 上田城・仙石氏以降の上田城



③信州上田城絵図(正保4年(1647)国立公文書館所蔵)  
仙石忠政の孫・政明が幕府に提出した城絵図。現在の上田城の縄張がほぼ完成していることが分かる。



①天正年間上田古図(市立博物館所蔵)  
真田昌幸の頃の上田城を表した絵図とされるが、後世に伝承等をもとに描かれたもので、正確さには疑問が残る。

ものどろ  
なお、二の丸堀に完成した  
の中に昭和3年に完成した  
かして造られた近代遺産です。た  
こから徒歩約5分)。この  
また、尼ヶ淵の崖下から本丸の櫓を見上げてみま  
堅い守りを家感できるスポットです(ここから徒歩約5分)。



金箔鯨瓦



金箔鬼瓦

②上田城から出土した金箔瓦  
本丸や二の丸の堀から出土した金箔瓦。真田昌幸の頃に使われた瓦。

上田城が誇る広大な堀  
百間堀はあちらです





さて、本丸を囲む土塁の上に進んでみよう

[video](#)



前方は本丸土塁の北東角/ここに北東隅櫓が建っていた/左手が本丸、右手は堀

 [video](#)



## 上田城本丸北東隅櫓跡

上田城は、真田昌幸によって天正11年（1583）に築城が開始され、徳川氏の攻撃を二度にわたって退けるなど、近世城郭としては希有な戦歴を誇る名城でしたが、慶長5年（1600）の関ヶ原合戦後に徳川氏配下の諸将によって徹底的に破壊されてしまいました。

廃城同然となっていた上田城を現在の姿に復興したのは、真田氏の次に上田藩主となった仙石忠政です。忠政による再築城は、寛永3～5年（1626～1628）にかけて行われ、基本的な縄張りは真田氏時代の形を継承しながら、各虎口（出入口）には石垣を築き、本丸には7棟の二層隅櫓と2棟の櫓門が建てられました。

本丸の北東部には2棟の隅櫓が建てられていたことが江戸時代のさまざまな絵図によって知られていましたが、平成6年度と7年度に発掘調査が行われ、正確な位置や大きさが確認されました。発掘調査の結果、隅櫓は石垣を築かずに土塁の上に直接建てられていたことがわかりました。また、隅櫓の規模は現存する西櫓などと同じく桁行5間、梁間4間と推定され、北側の隅櫓は東西方向に、南側の隅櫓は南北方向に棟の方向が向いていたことが確認されました。

現在、この場所には隅櫓の中心に建てられていた芯柱の礎石がそれぞれ残っていますが、いずれも明治時代以降に動かされ、本来の位置とは少しずれています。

### 【鬼門除け】

上田城の本丸と二の丸の土塁と堀は、北東の隅が直角ではなく、内側に折れて切り欠きが設けられています。北東（丑寅）の方角は「鬼門」と呼ばれ、古来より悪い物の怪が侵入してくる方角と考えられてきました。北東の隅に切り欠きを設けて鬼門を封じる風習は京都御所の土堀などにもみられ、真田昌幸による縄張りの遺構と考えられています。昌幸はさらに城下の北東の地（上田市新田）に八幡社を建立し、上田城と城下町を鎮護しています。

北東隅櫓跡から南方向に本丸の土塁を見たところ/右手が本丸、左手は堀



これは左手に「本丸土塁の隅欠」部分を見下ろしたところ/この部分の両サイドに北東隅櫓と、その対になるもう一つの隅櫓があったようだ



これは北東隅櫓跡から西方向に本丸の土塁を見たところ/左手が本丸、右手は堀/右手前の石が北東隅櫓の礎石なのか・・・

[video](#)



ここは北西隅櫓跡/説明板がある





劣化していて良く読めない

## 上田城本丸北西隅櫓跡

仙石忠政によって復興された上田城には、本丸に7棟の二層隅櫓と2棟の櫓門が建てられていました。本丸の東西の虎口（出入口）には、一对の石垣が築かれ、櫓門と2棟の隅櫓が建てられ、北東部の土塁上には2棟、北西部の土塁上には1棟の隅櫓が建てられていました。本丸北西部の隅櫓は、二の丸西虎口の正面に位置し、西側から侵入してくる敵に備えた櫓でした。

これらの建物は、明治維新後に政府によって民間に払い下げられ、現在の西櫓以外の建物は取り壊されたり、移築されたりしてしまいました。その後、昭和17年に2棟の隅櫓が上田市民の寄付金によって買い戻され、昭和18～24年にかけて現在の南櫓と北櫓として復元されました。また、平成6年には本丸東虎口に櫓門が復元され、往時の姿を取り戻しました。

本丸北西部の隅櫓跡は、平成6年度に発掘調査が行われ、土塁の上に直接建てられていた建物であったことが確認されました。現在、地上に露出している礎石は、隅櫓の中央に建てられた芯柱をすえるためのもので、円形の柱座が彫られており、芯柱は直径約50cmの丸太材の柱であったことがわかります。この礎石の周囲には約2mの範囲で栗石が残っており、本来の位置を留めていることがわかりました。また、建物の基礎材をすえるための栗石列や小礎石も検出され、この隅櫓が現存する西櫓などと同じく南北5間、東西4間の規模を有する建物であったことが確認されました。

### 【金箔瓦】

平成3年度に行われた本丸堀の浚渫工事の際に、堀底より大量の屋根瓦が出土しました。これらの瓦には、五七桐紋鬼瓦や菊花紋軒丸瓦など豊臣氏にゆかりの深い文様を持つ瓦が含まれており、豊臣秀吉に臣従していた真田昌幸によって建てられた建物に使用されていた瓦であることがわかりました。真田氏時代の上田城の様子は、絵図などの史料が乏しくほとんどわかっていませんが、城内の各所から出土する真田氏時代特有の瓦によって、瓦を葺いた建物が城内に多数存在していたことが推測されます。中でも北西隅櫓跡の西側の堀底からは金箔の付着した鯉鱗の破片が数点出土し、真田氏時代にはこの付近に黄金色に輝く鯉鱗の葺った建物が存在していたことが推測されます。

この左手の石は北西隅櫓の礎石のようだ（こちらは当初の位置にあるそうだ）



土塁の角の先端を見たところ/堀が回り込んでいる

 [video](#)



そこで振り返って本丸中心部を見たところ



同じく、左手（北東隅櫓跡がある東方向）を見たところ/右手が本丸、左手は堀

 [video](#)



こちらは南方向を見たところ/左手が本丸、右手は堀



その南方向に進み、土塁の先端で南方向を見ると西櫓が見える/手前は煙硝蔵跡



そこで、振り返って北方向（北西隅櫓跡方向）を見たところ/ここには南西隅櫓があったらしい/右手が本丸、左手は堀

[video](#)





その土塁の西側斜面に設けられた遊歩道を南方向に進んでみる

 [video](#)



本丸西虎口、西櫓、煙硝蔵跡の所に出た

[video](#)



見てきたように、本丸に設けられた隅櫓は7棟、櫓門は2棟あったことが絵図や発掘調査で確認されていると云う

## 長野県宝 上田城三櫓（南櫓・北櫓・西櫓）

種別建造物  
所在地 上田市二の丸  
指定年月日 昭和34年11月9日

上田城は、真田昌幸によって天正11年(1583)から築城が開始された平城である。城郭自体の規模はさほど大きくはないが、南方は千曲川の分流である<sup>あまがふち</sup>尼ヶ淵に面した断崖に臨み、他の三方は城下町と河川を巧みに配して、周囲一帯を極めて堅固な防御陣地としている。この上田城の特性は、天正13年(1585)と慶長5年(1600)の2回にわたる徳川氏との合戦の際に遺憾なく発揮され、真田氏と上田城の名は天下に鳴り響いたのである。

しかし、真田氏の上田城は、関ヶ原の合戦後に徹底的に破却され、現存する上田城の隅櫓や石垣は、寛永3～5年(1626～28)にかけて仙石忠政によって新たに築き直されたものである。

仙石氏による上田城再築は、忠政の病死により中絶し、堀や石垣などの<sup>ふしん</sup>普請(土木工事)は完成したものの、櫓や城門を建てる<sup>さくじ</sup>作事(建築工事)は本丸のみの未完成に終わった。本丸には、天守は建てられず、7棟の二層隅櫓と2棟の櫓門が建てられたことが、絵図などの記録と発掘調査によって確認されている。上田城は仙石氏の後、松平氏によって受け継がれ明治維新を迎えた。

現存する3棟の隅櫓のうち、本丸<sup>こくち</sup>西虎口(城郭の出入口)に建つ1棟(西櫓)は、寛永期の建造当初からのものであるが、本丸東虎口の2棟(南櫓・北櫓)は、明治初期に民間へ払い下げられ、市内に移築されていたものを市民の寄付により買い戻し、昭和18～24年にかけて現在の場所に復元したものである。これら3棟の櫓は、江戸時代初期の貴重な城郭建造物として、昭和34年に長野県宝に指定された。

三櫓の構造形式はいずれも共通で、二層二階、<sup>けたゆき</sup>桁行五間、<sup>はりま</sup>梁間四間の妻入り形式である。屋根は<sup>いりもや</sup>入母屋造りで、は本瓦を葺き、外廻りは<sup>しろしつくいぬりこめおおかべ</sup>白漆喰塗籠大壁で、<sup>こししたみいたば</sup>腰下見板張り、内部は白漆喰塗りの<sup>しんかべ</sup>真壁となっている。窓は白漆喰塗りの<sup>こうし</sup>格子窓で、突き上げ板戸が付いている。

なお、本丸東虎口櫓門と袖塀は、明治10年頃に撮影された古写真と、石垣の痕跡、発掘調査の成果などをもとに、平成6年に復元したものである。櫓門と同時に整備された本丸東虎口の<sup>どぼし</sup>土橋には、<sup>むしやたていしだん</sup>両側に武者立石段と呼ばれる石積が設けられ、本丸大手口としての格式を示している。

平成11年3月 上田市教育委員会

参考ホームページ

<http://yogokun.my.coocan.jp/nagano/uedasi.htm>

<https://museum.umic.jp/map/document/dot57.html>

<http://www.pcpulab.mydns.jp/main/uedaiyo.htm>

<http://www.natsuzora.com/dew/nagano/uedajosekikoen.html>

<https://wp.mikeforce.net/castles/2018/12/%E4%B8%8A%E7%94%B0%E5%9F%8E-%E2%88%92-ueda-castle-take2.html>

<https://sites.google.com/a/onodenkan.net/lie-dao-cheng-zhi-ji-xing/zhang-ye-xian/shang-tian-cheng>

<http://umoretakajo.jp/Shiro/TokaiKoshin/Nagano/Ueda/index.htm>

